

外郭団体評価調書【公益・一般法人用】

1. 基本情報

令和7年7月1日 現在

団体名	公益財団法人 新潟市海洋河川文化財団		
所在地	新潟市中央区西船見町5932番地445		
代表者(職・氏名) (所属・職)	代表理事 理事 長 佐藤 明	電話番号	025-222-7500
		ホームページ	https://www.marinepia.or.jp/kaiyoukasen
市所管課	文化スポーツ部 文化政策課	電子メール	kanri@marinepia.or.jp
基本財産 (基本金)	10,000 千円	設立年月日	平成28年3月15日
出資者	氏名・団体等名称	出資等額	出資等比率
	新潟市	10,000 千円	100.0 %
		千円	%
		千円	%
		千円	%
		千円	%
設立目的	新潟市を中心とする海洋・河川文化（海、河川をはじめとする水辺環境とそこに生息する生物などの影響を受けて発展してきた、人々の暮らし、生活様式、価値観等）の現況把握、歴史的背景及び保護継承を通して、社会における海洋・河川文化の重要性・関係性を啓発し、もって新潟市の文化醸成に寄与するとともに、地域社会の持続的発展に寄与することを目的とする。		
経営理念 経営方針	【経営理念】 時代の変遷とともに、環境や生活様式の変化などにより新潟独自の地域文化が薄れようとしている中、新潟の特色ある海洋・河川文化を再確認し、その魅力を市民に啓発することによって、新潟文化の個性と多様性の伸長を図り、文化を活かした創造都市の実現を目指す。 【経営方針】 新潟市水族館の指定管理者として、これまで積み上げてきた飼育・繁殖技術などの専門知識と経験、築き上げてきた全国的なネットワークを土台として、経営資源を体制強化していく中で地域社会の持続的発展に寄与する。また、文化創造のほか、教育普及、観光振興、環境保全、地域振興など多領域にわたる方々と連携しながら、時代の要請に即した課題の解決に向けた事業や研究活動・普及活動を行っていく。		

2. 主要事業

事業名①	海洋・河川文化の普及啓発、調査研究及び保護継承事業							
事業概要	(概要) 新潟における海洋・河川文化の現状や変遷を調査研究及び情報発信することにより、海洋・河川文化及び海洋・河川等、人との関わりの大切さを後世に継承し、併せて地域社会の持続的発展の担い手を育む。							
	(市政へどのように寄与・貢献するのか) 新潟市を中心とする海洋・河川文化の現状把握、歴史的背景及び保護継承を通して、社会における海洋・河川文化の重要性・関係性を啓発し、もって新潟市の文化醸成に寄与する。							
事業区分	主体区分	収支区分	単位	予算・決算	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
公益事業	-	収入額	千円	予算	593,896	595,944	672,487	673,105
				決算	616,096	627,667	680,469	-
活動指標①	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由			
海洋・河川文化の普及啓発(体験学習)	R7	回	8	-	-			
	R6	回	8	10	プログラム充実のため回数を増やして実施した			
	R5	回	8	8	計画どおり			
	R4	回	7	7	計画どおり			
活動指標②	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由			
海洋・河川文化の普及啓発(講演会)	R7	回	5	-	-			
	R6	回	4	4	計画どおり			
	R5	回	4	4	計画どおり			
	R4	回	3	3	計画どおり			
活動指標③	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由			
海洋・河川文化の普及啓発(各種施設との連携)	R7	件	出張展示 5 社会教室連携 1 学校教育連携 実習生受入 20 講師派遣 15 行政機関連携 3	-	-			
	R6	件	出張展示 5 社会教室連携 2 学校教育連携 47 実習生受入 20 講師派遣 18 行政機関連携 3	出張展示 8 社会教室連携 3 学校教育連携 69 実習生受入 22 講師派遣 16 行政機関連携 4	主に学校教育連携において校外での体験的な学びの場が重視され、受入が増加した			
	R5	件	出張展示 4 社会教室連携 1 学校教育連携 39 実習生受入 15 講師派遣 4	出張展示 5 社会教室連携 2 学校教育連携 47 実習生受入 37 講師派遣 18 行政機関連携 3	実習生受入や講師派遣を再開した			
	R4	件	出張展示 3 学校教育連携 24 実習生受入 15	出張展示 4 社会教室連携 1 学校教育連携 39 実習生受入 0 講師派遣 4	実習生受入は新型コロナウイルス感染症拡大防止により中止したため未達成			

活動指標④	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由
海洋・河川文化の調査研究 (研究発表)	R7	件	7	-	-
	R6	件	7	7	計画どおり
	R5	件	7	3	Web参加による発表機会の減少
	R4	件	7	2	新型コロナウイルス感染症の影響による発表機会の減少
活動指標⑤	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由
海洋・河川文化の調査研究 (各種会議)	R7	件	30	-	-
	R6	件	30	67	各種会議・研究会（Web含む）へ積極的に参加したため
	R5	件	30	44	各種会議・研究会（Web含む）へ積極的に参加したため
	R4	件	30	36	各種会議・研究会（Web含む）へ積極的に参加したため
活動指標⑥	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由
海洋・河川文化の調査研究 (共同研究)	R7	件	9	-	-
	R6	件	9	8	目的を達成し、終了した研究があり減少
	R5	件	11	10	目的を達成し、終了した研究があり減少
	R4	件	14	11	目的を達成し、終了した研究があり減少
活動指標⑦	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由
海洋・河川文化の保護保全 (生息域内保全)	R7	回	13	-	-
	R6	回	13	9	活動回数としては減少しているが、1回の活動で複数種の生物調査を行っている
	R5	回	15	12	ほぼ計画どおり
	R4	回	12	11	ほぼ計画どおり
活動指標⑧	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由
海洋・河川文化の保護保全 (連携調査)	R7	回	5	-	-
	R6	回	5	7	深海生物調査を計画回数以上に取り組んだため
	R5	回	4	4	計画どおり
	R4	回	18	3	目的を達成し、終了した調査があり減少

活動指標⑨	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由
海洋・河川文化の 保護保全 (生物調査)	R7	回	未定	-	-
	R6	回	未定	47	漂着生物は予測できないため計画できない
	R5	回	未定	32	漂着生物は予測できないため計画できない
	R4	回	未定	16	漂着生物は予測できないため計画できない

所管課の関わり及び 主要事業にかかる評価	定例会や評議会を通じて情報共有を行った。 計画に基づく目標を達成しており評価できる。 今後とも積極的な調査・研究に取り組んでほしい。
-------------------------	--

2. 主要事業

事業名②		海洋・河川に生息する水生生物とその生息環境の展示及び飼育事業							
事業概要		<p>(概要) 新潟の自然環境とそこに生息する水生生物の展示を基礎としながら、多種多様な環境の生物を展示し、各種体験型プログラムを実施することで、市民が海洋・河川や水生生物などに親しむ機会の充実などを図り、海洋・河川に関心を持つきっかけとなる機会を創出する。</p> <p>(市政へどのように寄与・貢献するのか) 指定管理施設である新潟市水族館を活用し、水生生物や自然環境についてわかりやすく展示し、併せて海洋・河川文化の普及啓発に努め、市民が気軽に楽しみながら学べる文化施設とすることで、市民の知的欲求に応えるとともに、地域の自然や文化への誇りを醸成する。</p>							
		事業区分	主体区分	収支区分	単位	<small>予算・決算</small>	令和4年度	令和5年度	令和6年度
公益事業	-	収入額	千円	予算	-	-	-	-	-
				決算	事業(1)に含む	事業(1)に含む	事業(1)に含む	事業(1)に含む	事業(1)に含む
活動指標①		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由			
水生生物に関する知識の普及振興(いきもの教室)		R7	回	3	-	-			
		R6	回	3	3	計画どおり			
		R5	回	3	3	計画どおり			
		R4	回	6	6	計画どおり			
活動指標②		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由			
水生生物に関する知識の普及振興(企画展示)		R7	回	4	-	-			
		R6	回	4	7	従来の企画展示室以外の場所を活用して規模の小さな企画展示などを実施した			
		R5	回	4	4	計画どおり			
		R4	回	4	4	計画どおり			

活動指標③	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由
水生生物に関する知識の普及振興 (参加型イベント)	R7	回	2	-	-
	R6	回	2	3	職員の工夫により追加実施したため
	R5	回	3	4	職員の工夫により追加実施したため
	R4	回	3	4	職員の工夫により追加実施したため
活動指標④	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由
水生生物に関する知識の普及振興 (記念日イベント)	R7	回	2	-	-
	R6	回	2	2	計画どおり
	R5	回	2	2	計画どおり
	R4	回	2	2	計画どおり
活動指標⑤	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由
水生生物に関する知識の普及振興 (特別ガイドツアー)	R7	回	2	-	-
	R6	回	2	2	計画どおり
	R5	回	1	2	職員の工夫により追加実施したため
	R4	回	1	1	計画どおり
活動指標⑥	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由
水生生物に関する知識の普及振興 (大人向け教室)	R7	回	0	-	-
	R6	回	1	1	計画どおり
	R5	回	2	1	計画どおり(計画数2には、活動指標⑦水生生物に関する知識の普及振興(障がい者向け教室)の1を重複してカウントしていたため)
	R4	回	5	5	計画どおり

活動指標⑦	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由
水生生物に関する知識の普及振興 (障がい者向け教室)	R7		1	-	-
	R6		1	1	計画どおり
	R5		1	1	計画どおり
	R4		-	-	
活動指標⑧	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由
水生生物の収集、飼育、展示 (飼育展示)	R7		600種 20,000点超	-	-
	R6		600種 20,000点超	600種 20,000点超	計画どおり
	R5		600種 20,000点超	600種 20,000点超	計画どおり (計画数を仕様書どおり見直した)
	R4		600種 30,000点超	600種 20,000点超	時期により展示数に大きな差があり計画を下回る期間があったが、指定管理仕様書にある点数は維持している
活動指標⑨	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由
水生生物の収集、飼育、展示 (常設解説)	R7	種類	6	-	-
	R6	種類	6	6	計画どおり
	R5	種類	6	6	計画どおり
	R4	種類	6	6	計画どおり
活動指標⑩	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由
水生生物の収集、飼育、展示 (生物収集)	R7	回	42	-	-
	R6	回	42	67	地元漁協の協力により、収集活動機会が増加
	R5	回	46	75	地元漁協の協力により、収集活動機会が増加
	R4	回	48	75	地元漁協の協力により、収集活動機会が増加

活動指標⑪	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由
水生生物の収集、飼育、展示 (生物交換)	R7	回	5	-	-
	R6	回	5	9	他園館との交換の機会が増加
	R5	回	8	13	他園館との交換の機会が増加
	R4	回	7	8	ほぼ計画どおり

所管課の関わり及び 主要事業にかかる評価	計画通りに実施できており評価できる。また、他団体との協力体制を構築し、より充実した収集や展示活動に取り組んでいる点も評価できる。引き続き、市民への普及啓発活動に努めてほしい。
---------------------------------	---

2. 主要事業

事業名③	施設管理に付帯する事業							
事業概要	(概要) 施設利用者に対する利便性を図るため、レストラン及び売店、自動販売機等の設置を行う。							
	(市政へどのように寄与・貢献するのか) 収益事業の一部を施設管理経費（新潟市水族館の施設修繕費等）へ充当する。							
事業区分	主体区分	収支区分	単位	予算・決算	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
収益事業	-	収入額	千円	予算	49,265	72,729	80,703	82,357
				決算	72,328	79,771	82,586	-
活動指標①	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由			
レストラン・軽食の設置	R7	箇所	4	-	-			
		(収入額)	(14,594千円)	-				
	R6	箇所	4	4	計画どおり			
		(収入額)	(13,957千円)	(14,511千円)				
	R5	箇所	4	4	計画どおり			
		(収入額)	(11,938千円)	(13,631千円)				
	R4	箇所	4	4	計画どおり			
		(収入額)	(8,055千円)	(11,877千円)				
活動指標②	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由			
売店の設置	R7	箇所	1	-	-			
		(収入額)	(50,830千円)	-				
	R6	箇所	1	1	計画どおり			
		(収入額)	(48,854千円)	(50,537千円)				
	R5	箇所	1	1	計画どおり			
		(収入額)	(46,066千円)	(48,293千円)				
	R4	箇所	1	1	計画どおり			
		(収入額)	(29,728千円)	(44,797千円)				
活動指標③	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由			
自動販売機等の設置	R7	箇所	18	-	-			
		(収入額)	(16,931千円)	-				
	R6	箇所	19	18	利用頻度等から適切な設置台数となるよう見直した			
		(収入額)	(17,891千円)	(17,538千円)				
	R5	箇所	19	19	計画どおり			
		(収入額)	(14,725千円)	(10,404千円)				
	R4	箇所	19	19	計画どおり			
		(収入額)	(11,482千円)	(15,654千円)				
所管課の関わり及び主要事業にかかる評価			計画通りに実施できている点や、施設利用者の利便性を考えて、設備の改善を図っている点も評価できる。 引き続き、利用者への利便性の向上と改善に努めて魅力ある施設として運営してほしい。					

3. 組織等の状況

(1) 役職員数の状況

令和7年7月1日 現在 (単位:人)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
役員数	9	9	9	9
常勤	1	1	1	1
市派遣				
市職員OB	1	1	1	1
プロパー役員				
他団体からの派遣				
非常勤	8	8	8	8
市兼任	1	1	1	1
市職員OB	1	1	1	1
他団体兼任	6	6	6	6
その他				
職員数	53	51	51	50
常勤	28	27	26	25
市派遣				
市職員OB				
プロパー職員	28	27	26	25
他団体からの派遣				
非常勤	25	24	25	25
市兼任				
市職員OB				
他団体兼任				
その他臨時・嘱託等	25	24	25	25
見直し等の取組み	雇用期間5年超の臨時職員を無期嘱託職員への転換を可能とする制度を整備 (R4.4.1施行)	定年退職者(プロパー職員1名)を再雇用嘱託職員として採用	定年退職者(プロパー職員1名)を再雇用嘱託職員として採用	・定年退職者(プロパー職員1名)を再雇用嘱託職員として採用 ・R6策定の人員配置計画に基づき、退職者2名のうち1名を不補充

(2) 職員の状況(市派遣職員を除く。)

令和7年7月1日 現在 (単位:人)

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
職員の状況	管理職	4	5	5	6
	一般職	49	46	46	44
	合計	53	51	51	50
年齢構成	20代以下	22	19	16	14
	30代	10	11	14	15
	40代	8	7	5	5
	50代	13	13	14	12
	60代以上	0	1	2	4
	合計	53	51	51	50

(3) 役員報酬・職員給与等の状況

(決算 単位：千円)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度(予算)
報酬・給与等	221,332	223,626	225,663	213,104
内 市職員分	0	0	0	0
役員	5,072	5,384	5,085	5,293
常勤	4,721	4,721	4,721	4,721
内 市職員分				
非常勤	351	663	364	572
内 市職員分				
職員	216,260	218,242	220,578	207,811
常勤	164,043	163,518	161,051	146,975
内 市職員分				
非常勤	52,217	54,724	59,527	60,836
内 市職員分				
平均年収(市職員を除く。)				
常勤役員	4,720	4,721	4,721	4,721
常勤職員	5,859	6,056	6,194	5,879
見直し等の取り組み			プロパー職員は新潟市給与条例の改正に合わせて改定し、嘱託・臨時職員はプロパー職員の改定率に合わせて報酬・賃金を改定	プロパー職員は新潟市給与条例の改正に合わせて改定し、嘱託・臨時職員はプロパー職員の改定率に合わせて報酬・賃金を改定

(4) 給与等の適正化の状況(市派遣職員を除く。)

現在の給与体系		今後の見直し予定	
		有	予定時期 年度～
●	団体独自の給与体系	●	無
●	市の給与体系を準用	●	無
	その他〔但し、初任給は市より低い〕		その他〔 〕

4. 財務の状況

(1) 正味財産増減計算書

(決算 単位：千円)

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
一般正味財産増減の部	経常収益	720,998	732,372	788,280
	基本財産運用益			
	特定資産運用益			
	受取会費			
	事業収益	688,426	707,439	763,055
	自主事業収益	77,604	93,622	92,186
	受託事業収益	610,822	613,817	670,869
	受取補助金等・負担金	32,471	24,832	24,920
	その他経常収益	101	101	305
	経常費用	697,682	720,186	753,106
	事業費	694,381	718,374	751,424
	公益目的事業費	660,286	684,609	719,199
	収益目的事業費	34,095	33,765	32,225
	法人会計			
	管理費	3,301	1,812	1,682
	評価損益等調整前当期経常増減額	23,316	12,186	35,174
	評価損益等	▲ 7,677	▲ 7,736	▲ 8,767
	基本財産評価損益等			
	特定資産評価損益等			
	法人税・住民税及び事業税	▲ 7,677	▲ 7,736	▲ 8,767
当期経常増減額	15,639	4,450	26,407	
経常外収益				
経常外費用				
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	15,639	4,450	26,407	
一般正味財産期首残高	65,067	80,706	85,156	
一般正味財産期末残高	80,706	85,156	111,563	
指定正味財産増減の部	受取補助金等・負担金			
	その他			
	基本財産評価損益			
	特定財産評価損益			
	一般正味財産への振替額			
	当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	10,000	10,000	10,000	
指定正味財産期末残高	10,000	10,000	10,000	
基金増減の部	基金受入額			
	基金返還額			
	当期基金増減額	0	0	0
	基金期首残高			
基金期末残高	0	0	0	
正味財産期末残高		90,706	95,156	121,563

(参考)

(別掲) 人件費	246,979	258,150	252,458
役員分	5,759	5,798	5,768
職員分	241,220	252,352	246,690

(2) 貸借対照表

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
資産の部	資産の部合計	310,810	340,433	345,784
	流動資産	150,273	200,058	209,889
	現金預金	120,248	168,785	201,961
	未収金	29,025	30,696	7,622
	有価証券			
	その他流動資産	1,000	577	306
	固定資産	160,537	140,375	135,895
	基本財産	10,000	10,000	10,000
	特定資産	149,878	130,174	125,895
	その他固定資産	659	201	0
	有形固定資産	659	201	0
無形固定資産				
その他投資等				
負債の部	負債の部合計	220,104	245,277	224,221
	流動負債	76,247	110,187	101,357
	短期借入金			
	その他流動負債	76,247	110,187	101,357
	固定負債	143,857	135,090	122,864
長期借入金				
その他固定負債	143,857	135,090	122,864	
正味財産の部	正味財産の部合計	90,706	95,156	121,563
	基金	0	0	0
	(基本財産充当額)			
	(特定資産充当額)			
	指定正味財産	10,000	10,000	10,000
	うち補助金			
	(基本財産充当額)	10,000	10,000	10,000
	(特定資産充当額)			
	一般正味財産	80,706	85,156	111,563
	代替基金			
その他一般正味財産	80,706	85,156	111,563	
(基本財産充当額)				
(特定資産充当額)				
負債の部及び正味財産の部合計		310,810	340,433	345,784

(3) 市財政支出等の状況

(決算 単位：千円)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
市財政支出等の合計	643,293	638,649	695,788
補助金	32,471	24,832	24,919
事業費補助金			
運営費補助金	32,471	24,832	24,919
設備投資に係る補助金			
負担金			
交付金			
委託料	610,822	613,817	670,869
指定管理料（公募）			
指定管理料（非公募）	610,822	613,817	670,869
業務委託（随意契約）			
業務委託（その他）			
貸付金(期中借入額)			
出資・出捐金(追加額)			
その他			
貸付金残高			
損失補償契約に係る債務残高			
損失補償限度額			
債務保証に係る債務残高			
その他財政援助の状況 (税や使用料の減免、建物の無償貸与等)			

(市財政支出等がある場合) 目的、内容、必要性、増減理由等

新潟市水族館における、適正かつ円滑に管理運営、飼育・展示の強化及び海洋河川文化の研究・普及啓発に取り組むためには、新潟市からの財政支出が必要である。

(4) 遊休財産の状況

(単位：千円)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
純資産	90,706	95,156	121,563
公益目的保有財産	▲	▲	▲
公益目的事業を行う為に必要な収益事業等その他の業務又は活動の用に供する財産	▲ 10,000	▲ 10,000	▲ 10,000
特定の財産の取得又は改良に充てるために保有する資金	▲	▲	▲
合理的に算出された必要限度額以内の特定費用準備資金	▲ 17,021	▲ 6,083	▲ 14,031
拠出者の意思に従って、使用・保有されている財産	▲	▲	▲
遊休財産額	63,685	79,073	97,532

5. 経営改善状況（評価指標）

※ 評価基準に満たない場合は、網掛けセルに太字斜字体が表示されます。

(1) 財務の健全性

指標		令和4年度	令和5年度	令和6年度
経常損益		15,639 千円	4,450 千円	26,407 千円
自己資本比率	純資産	29.2 %	28.0 %	35.2 %
	純資産＋負債			
流動比率	流動資産	197.1 %	181.6 %	207.1 %
	流動負債			
固定長期適合率	固定資産	68.4 %	61.0 %	55.6 %
	固定負債＋純資産			
借入金依存度	借入金	0.0 %	0.0 %	0.0 %
	資産の部合計			
剰余金（欠損金）	純資産 －資本金（基本金）	80,706 千円	85,156 千円	111,563 千円
公益目的事業比率	公益目的事業費	94.6 %	95.1 %	95.5 %
	公益・収益目的事業費＋管理費			
遊休財産水準	公益目的事業費	10.37	8.66	7.37
	遊休財産額			
資金運用	基本財産としての 有価証券の保有	●	有 無	① 運用方針を明文化し、それに従って運用している。
				② 資金運用利率は市場金利の水準を確保している。
				③ 資金運用に関する情報収集に努めている。
				④ 元本割れのリスクはない。

(2) 団体の自立性

指標		令和4年度	令和5年度	令和6年度
市職員比率	常勤職員数（市職員）	0.0 %	0.0 %	0.0 %
	常勤職員数			
財政的依存度	市財政支出	89.2 %	87.2 %	88.3 %
	経常収益＋経常外収益			
運営費補助比率	市運営費補助金	4.5 %	3.4 %	3.2 %
	経常収益			
随意契約比率	市随意契約額	100.0 %	100.0 %	100.0 %
	市委託料			

(3) 経営の効率性

指標		令和4年度	令和5年度	令和6年度
職員1人当たり 売上高	事業収益	12,989 千円	13,871 千円	14,962 千円
	職員数			
職員1人当たり 経常利益	事業活動収支差額	295 千円	87 千円	518 千円
	職員数			
管理費比率	管理費	0.5 %	0.3 %	0.2 %
	経常費用			
職員1人当たり 管理費	管理費	62 千円	36 千円	33 千円
	職員数			
人件費比率	人件費	34.3 %	35.2 %	32.0 %
	経常収益			
役員人件費比率	役員人件費	2.3 %	2.2 %	2.3 %
	人件費			

(4) 経営の適正性

① 中長期計画の策定状況	
● 有	計画名称 [中長期計画] 計画期間 令和6年度 ~ 令和10年度
概要・数値目標 令和6年度から令和10年度までの財団及び水族館の計画を策定	
	未策定理由 無 []

② 経理の適正化の取組み	
専門家による監事・監査役就任	専門家による会計指導
● 有	就任時期 28年度～ 依頼先職種 [FUN税理士法人]
	● 有 依頼時期 28年度～ 依頼先職種 [FUN税理士法人]
	無

③ 事務処理改善の取組み	
● 有	取組内容 28年度～ 各種規程・規則の整備、会計システムの更新、各種講習会の参加など
	無

④ 人材育成の取組み	
● 有	取組内容 29年度～ 専門力強化（アナウンス、接遇）を目的とした職種別研修、役割遂行能力強化（中堅職員、管理職など）を目的とした階層別研修などを行った。また、各種会議や研修会に多数参加した。
	無

⑤ 情報公開に関する規定の整備状況	
● 有	策定時期 28年度～ 規定名称 [(公財)新潟市海洋河川文化財団 情報公開規程]
	● 定款等 28年度～
	● 事業内容 28年度～
	● 役員名簿 28年度～
	● 役員報酬 28年度～
	● 事業報告 28年度～
	● 正味財産増減計算書 28年度～
	● 貸借対照表 28年度～
	● 事業計画書 28年度～
	● 予算概要 28年度～
	無 未整備理由 []

改善対応区分
A:改善対応済(引き続き継続して実施するものも含む)
B:改善の取組の効果が始まっている
C:改善の取組に着手
D:改善の取組に向けて検討中
E:今は実施せず今後の課題とする

6. 経営改善状況（個別の取組み）

(1) 前年度までの評価における【改善指示事項】の改善状況

改善指示事項		海洋河川文化の普及啓発だけでなく、観光振興を通じた経済的な効果の観点からも新潟市水族館の特色や魅力について、市内外へ積極的にアピールしていく必要がある。				
改善に向けた取組み	改善のために取り組んだ内容	「自社メディア(HPやチラシ等)」「ソーシャルメディア」「プレスリリース」「有料広告」を柱とし、それぞれの特性を活かしながら効果的・効率的にPRを行った。新たに東京エリアのフリーペーパーへの広告など県外への広報を充実させた。新潟市水族館のファンを増やし、何度も来館していただけるよう新潟市在住者を中心に年間パスポートの購入促進を行った。				
	取組みによる成果	行楽や帰省で県外客も多く、リニューアル直後の平成25年、平成26年に次ぐ3番目の入館者数となった。県外客は飲食・土産の購買意欲が高いことから、レストラン・売店の売り上げがリニューアル以降最高であった令和5年度を更新した。				
	改善・対応区分	A	B	● C	D	E
	実施事項	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
	ホームページ(SNS含む)更新件数 週平均7回以上	計画	ホームページアクセス前年度比5%以上	ホームページ(SNS含む)更新件数 週平均7回以上	ホームページ(SNS含む)更新件数 週平均7回以上	ホームページ(SNS含む)更新件数 週平均7回以上
		実績	約73万件	週平均10回以上		
	進捗状況	【令和6年度までの達成状況及び今後の見込み】 「入館者1,800万人達成」「ヤリマンボウ生鮮標本展示」「クリスマスツリー展示」など、常にタイムリーな情報をテレビ、ラジオ、プレスリリース、SNSを利用し発信した。SNSを含むホームページは週平均10回以上更新している。				
	今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 積極的な広報活動や、SNSを利用したタイムリーな情報発信を継続的に行い、新潟市水族館に興味を持ってもらうことで、最終的な行楽の目的地として選択してもらうこと。				
	課題への対応	【今後の課題への対応】 アンケート結果の分析や社会情勢を把握して、効果的な広報活動やSNSを利用したタイムリーな情報発信をより積極的に行う。また、ホームページやSNSを高頻度で更新し、新たな情報を常に提供する。				
	年間パスポート購入者14,000人以上	計画	年間パスポート購入者前年比5%以上	年間パスポート購入者14,000人以上	年間パスポート購入者14,000人以上	年間パスポート購入者14,000人以上
実績		15,971人	15,723人			
進捗状況		【令和6年度までの達成状況及び今後の見込み】 積極的なPRやキャンペーンを継続して実施した。令和4年度から3年連続で15,000人を超える多くの方に購入いただいた。また、導入から3年目となるデジタル版年間パスポートの普及率は37.6%まで上昇している。				
今後の課題		【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 新規購入者の獲得及びパスポート更新の促進により、保有者数を維持・増加させること。デジタル版年間パスポートの利便性をアピールし、カード型からデジタル版への以降を図ること。				
課題への対応		【今後の課題への対応】 展示生物の成長や変化を体感でき、常に新鮮味や発見のある展示や企画の実施に努める。来館者に期待以上に満足してもらい、繰り返し来館したくなるような魅力ある水族館を目指していく。				

評価指標

改善指示事項		ベテラン従業員が長年培った専門知識、技術、経験等を若い世代に継承できるよう、若い世代を採用する中長期計画を早急に立案・実行することが必要である。					
改善のために取り組んだ内容	人員配置計画を策定し、新潟市と協議を進めた。定年に達した職員を再雇用し、これまでの知識や経験を活かした配置を行った。						
	定年後再雇用の職員を含めたベテラン職員の専門的知識や技術、経験等の継承を行いながら、質を低下させることなく適正な財団運営及び水族館運営を行った。						
改善・対応区分		A	B	● C	D	E	
評価指標	実施事項		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
	採用に関する中長期計画の立案及び実行	計画	正職員定年退職に伴う再雇用	適正人員配置計画の作成及び新潟市との協議	適正人員配置計画の実施	適正人員配置計画の実施	
		実績	正職員定年退職者を再雇用	正職員定年退職者を再雇用			
		進捗状況	【令和6年度までの達成状況及び今後の見込み】 新潟市と協議しながら職員の採用等を行ってきた。令和6年度においては、「人員配置計画」を策定した上で、市と協議し、退職者2名のうち1名を不補充とした。定年退職者については、本人の働く意志及び意欲を確認の上、当財団の「再雇用嘱託職員就業規則」に基づき再雇用し、これまでの知識、経験を活かした配置を行った。 今後も「人員配置計画」に基づき、適正な配置を行っていく。				
		今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 定年退職者を再雇用することで当面は現行のレベルを維持することが可能だが、今後、社会教育施設・文化施設として、地域との連携や教育普及活動・調査研究の充実、観光への寄与等がより一層求められる中で、健全な組織を維持するために若年層を採用し、新陳代謝を行い、技術の継承を図る必要がある。				
		課題への対応	【今後の課題への対応】 当財団は専門性の高い事業を行っており、専門知識や技術、経験等の継承や、新たな知識・技術の習得が必要不可欠である。業務の見直しや人材育成を図るとともに、適正な人員配置について新潟市の理解を得ながら計画的に進めていきたい。				

改善対応区分
 A:改善対応済(引き続き継続して実施するものも含む)
 B:改善の取組の効果が始まっている
 C:改善の取組に着手
 D:改善の取組に向けて検討中
 E:今は実施せず今後の課題とする

(2) 【その他改善を要する事項】の改善状況

今後改善を要する事項		水族館の取り組みに対する認知度の向上				
改善に向けた取り組み 評価指標	改善のために取り組んだ内容	学習支援として行っている「総合学習」として過去最大数を受け入れた。また、アウトリーチ事業の一貫として職員の講師派遣を積極的に行った。博物館類似施設としての一面を持つ水族館として実習生の受け入れも継続して行った。				
	取り組みによる成果	水生生物への関心呼び起こしたり、環境保全について考えたりする機会を提供できた。環境教育等のプログラムは、小学校のほか中学校、高等学校、専門学校からも依頼が拡大してきている。これらの継続により、水族館の取り組みを周知することができた。				
	改善・対応区分	A	B	● C	D	E
	実施事項	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
	教育・普及の強化	計画	事業の充実と発展を図る	事業の充実と発展を図る	事業の充実と発展を図る	事業の充実と発展を図る
		実績	事業の充実と定着を図った	事業の充実と定着を図った		
進捗状況	【令和6年度までの達成状況及び今後の見込み】 校外学習でのワークシートの活用を引き続き行ったほか、地先海岸で海岸清掃を行い、多くの方から参加いただいた。また、新潟市や新潟県等が主催する環境に関するイベントに出展するほか、新たに学校法人新潟青陵学園と締結した包括連携協定により相互に協力した。					
今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 水生生物への関心呼び起こし、環境保全について考える機会をより多くの方に提供すること。また、ニーズに合わせた対応が求められることから、講師として派遣する職員の指導者としての専門性を高めていく必要がある。					
課題への対応	【今後の課題への対応】 学校団体等を対象としたワークシートは、活用いただいた団体からご意見等をフィードバックいただきながら質の高いものとなるよう工夫し、多くの団体等に活用いただけるよう周知を図る。講師としての経験を通じ職員のスキルアップにつなげていく。					

今後改善を要する事項		正職員高齢化（定年退職）に伴う対応				
改善に向けた取り組み 評価指標	改善のために取り組んだ内容	定年退職者を再雇用（最長5年）するとともに、「人員配置計画」を策定した。				
	取り組みによる成果	定年職員を再雇用職員として採用し、知識、経験を活かした配置としたことで、財団及び水族館を円滑に運営することができた。「人員配置計画」を策定した。				
	改善・対応区分	A	B	● C	D	E
	実施事項	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
	正職員高齢化（定年退職）に伴う対応	計画	正職員定年退職に伴う若手職員の採用	適正人員配置計画の策定及び新潟市との協議	適正人員配置計画の実施	適正人員配置計画の実施
		実績	採用計画を検討	適正人員配置計画の策定及び新潟市との協議		
進捗状況	【令和6年度までの達成状況及び今後の見込み】 新潟市と協議しながら職員の採用等を行ってきた。令和6年度においては、「人員配置計画」を策定した上で、市と協議し、退職者2名のうち1名を不補充とした。定年退職者については、本人の働く意志及び意欲を確認の上、当財団の「再雇用嘱託職員就業規則」に基づき再雇用し、これまでの知識、経験を活かした配置を行った。 今後も「人員配置計画」に基づき、適正な配置を行っていく。					
今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 持続可能な財団運営及び質の高い水族館運営を行うため、適切に世代交代させていく必要がある。また、そのためには計画的に正職員を採用していくことも必要である。					
課題への対応	【今後の課題への対応】 業務の見直しや人材育成を図るとともに、適正な人員配置について新潟市の理解を得ながら、策定した計画に沿って進めていきたい。					

7. 評価の結果

【団体の評価コメント】

財務の健全性	令和6年度は、流動比率が向上し、自己資本比率のみが評価基準を満たさなかったが、一般正味財産は増加の傾向にあり自己資本比率も上がっており、財務は健全に保たれている。
団体の自立性	令和6年度は、財政的依存度のみが評価基準を満たさなかった。新潟市からの指定管理料が前年度までと比して高額になったことによるものである。その要因は、人件費、光熱水費を含む物価の高騰が加味されたことによるものであり、財団の自立性は保たれていると考える。
経営の効率性・適正性	令和6年度は、すべての指標で評価基準を満たすことができた。各種規程の整備、講習会への参加、外部の専門家（顧問弁護士、公認会計士、社会保険労務士）の指導・助言に基づき、効率性及び適正性を維持している。
その他	経営改善の個別の取り組みは、各項目とも改善に向けて進捗を図り一定の効果を出した。今後、記載したとおり課題への対応を実施していく。
総括的な所見	
物価や光熱費の高騰の影響を受けながらも黒字決算を続けており、財団の財政面及び水族館の管理運営面とともに特段の問題はない。また、中長期計画もほぼ予定どおり成果（結果）を出している。引き続き改善事項に対応し、適正な経営に努める。	

【新たに改善を要する事項】 ※「6. 経営改善状況」に記載のもの以外で改善を要する事項を記載

今後改善を要する事項					
評価指標	実施事項	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	計画				
	実績				
	今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】			
	課題への対応	【今後の課題への対応】			

【団体による総括的な評価】

<p>当財団では、水生生物や水族館管理運営に関して、専門的な高い技術を持った職員を有し、ハンズオン展示や教育効果の高いプログラムを数多く実施するなど、水族館及び海洋河川文化の振興という財団の社会的使命を果たし、市政への寄与・貢献に努めている。また、来館者が快適な時間を過ごせる場所を提供するとともに、効率的で円滑な運営に努めている。毎月実施しているお客様アンケート調査でも、展示生物や解説プログラムなどにおいて高い評価を得ている。入館者数についても好調を維持しており、令和6年度は55万人を超えることができた。財団運営については、黒字を確保しており、財務の健全性や個別事項など経営の改善を継続して進めている。全体としては、財団の設立目的に合致した事業・運営を行っているものと評価している。</p>
--

【所管課による評価】

<p>令和6年度においても前年度を上回る入館者数となり、リニューアルオープン直後の平成26年度の56万人に次ぐ、55万人を記録した。年間パスポートの購入者数は前年度と比して微減となったが、入館料（使用料）収入は前年度比3.8%増の4.8億円であった。入館者数、入館料ともに目標を達成しており、高く評価する。施設の運営に関しては、光熱水費の高騰だけでなく、生物飼料の高騰もあり、年々経営環境が厳しくなる中で常に業務改善や経費節減に取り組みながら、安定した施設運営、法人経営を行っていることについても高く評価する。引き続き、入館者数及び入館料収入の増に向けて広報活動等に取り組むと同時に、社会教育施設としての水族館の役割を果たしていくために、魅力ある施設運営や調査研究に取り組んで欲しい。</p>
--